

優良繁殖雌牛導入事業の効果について

東部家畜保健衛生所

梶野昌伯、香川正樹

事業概要

県では気高系の県有種雄牛「讃福茂」と相性のよい優良繁殖雌牛の導入を目的として、平成21、22年度に「今すぐ讃岐牛品質向上対策事業」を行なった。平成21年度の事業費は20百万、平成22年度の事業費は12百万円。平成21年度は藤良系の「第1花国」、平成22年度は田尻系の「安福久」の優良繁殖雌牛が導入された。(図1)「オリーブ牛」の生産基盤強化の推進を目的として、平成25、26年度に「香川県産生まれオリーブ牛促進事業」を行った。平成25年度の事業費は12百万円、平成26年度の事業費は10百万円。平成25年度が茂金系の「茂洋」と田尻系の「安福久」、平成26年が気高系の「百合茂」「勝忠平」「隆之国」「美国桜」「福華1」の優良繁殖雌牛が導入された。(図2) これらの導入実績、生産子牛の市場評価等から優良繁殖雌牛導入事業の効果について検討したので報告する。

図1 導入事業概要

今すぐ「讃岐牛」品質向上対策(H21, H22)
県有種雄牛「讃福茂」と相性のよい優良繁殖雌牛を導入。
事業費:20百万円(H21)、12百万円(H22)
補助率:家畜の購入費の1/2以内(上限:40万円/頭)

H21、22
第1花国(藤良系)

H22
安福久(田尻系)



讃福茂:(気高系)

図2 導入事業概要

香川県産まれオリーブ牛促進事業(H25, H26)
「オリーブ牛」の生産基盤強化の推進。
事業費:12百万円(H25)、10百万円(H26)
補助率:・H25

(家畜の購入費-30万円)の1/2以内
1頭あたり40万円以上(上限:20万円/頭)

・H26

家畜の購入費の1/2以内(上限:20万円/頭)

H25
茂洋(茂金系)
安福久(田尻系)

H26
百合茂、勝忠平、隆之国
美国桜、福華1(気高系)



讃岐安福:(田尻系)

導入実績

平成21年度;61頭、平成22年度;56頭、平成25年度;34頭、平成26年度;50頭の計201頭を68戸の農家が導入した。この頭数は県内飼育頭数1513頭の13%だった。

また、導入実績を和牛改良組合別等に見ると、高松市和牛改良組合が14戸45頭、東かがわ市和牛改良組合が4戸10頭、中讃和牛改良組合が13戸36頭、西讃和牛改良組合が22戸67頭、三木町や小豆島等の改良組合がない地区が15戸43頭である。

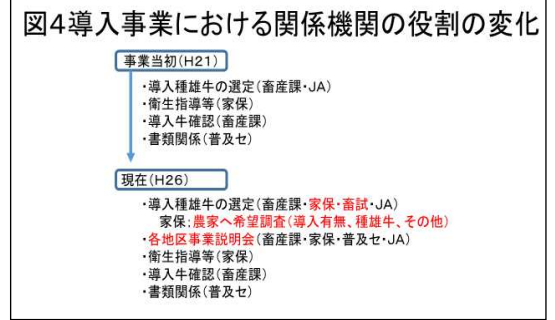
図3 導入実績

H21年度 61頭(第1花国)
H22年度 56頭(第1花国)(安福久)
H25年度 34頭(茂洋)(安福久)
H26年度 50頭(百合茂)(勝忠平)(隆之国)(美国桜)(福華1)
合計 68戸 201頭
県内飼育頭数(1,513頭)に対する割合:13%

・高松市和牛改良組合 14戸 45頭	・東かがわ市和牛改良組合 4戸 10頭
・中讃和牛改良組合 13戸 36頭	・西讃和牛改良組合(未承認) 22戸 67頭
	・その他 15戸 43頭

導入事業における関係機関の役割変化

平成21年度の事業当初は導入種雄牛の選定は畜産課・JA、衛生指導等は家保、導入牛確認は畜産課、事業に係る書類関係は普及センターが担当した。平成26年度の事業より、導入牛種雄牛の選定等に家保・畜試が新たに加わり、家保は導入事業への参加希望の確認、並びに導入牛の父牛の意向調査を担当した。また、家保を含む県内3か所で各事業説明会を開催した。(図4)



分娩の状況(初産の仕向)

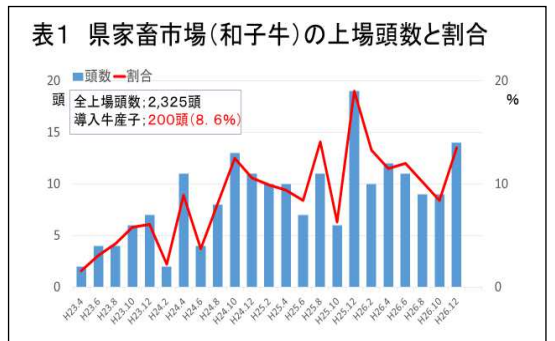
分娩の状況調査結果では、平成21年度導入牛61頭中59頭(初産)が分娩し、うち、雄は31頭、雌は28頭だった。雄は16頭が第10回全国和牛能力共進会の出品候補牛となった。雌は11頭が繁殖素牛となった。平成22年度導入牛は母牛56頭中55頭(初産)が分娩し、うち、雄は29頭、雌は26頭だった。メスは14頭が繁殖素牛となった。

一部の2産目を含めると、導入牛とその生産メス産子48頭を併せると246頭が繁殖牛となった。これは、県内飼育頭数の16.4%である。(図5)



県家畜市場(和牛子牛)の上場頭数とその割合

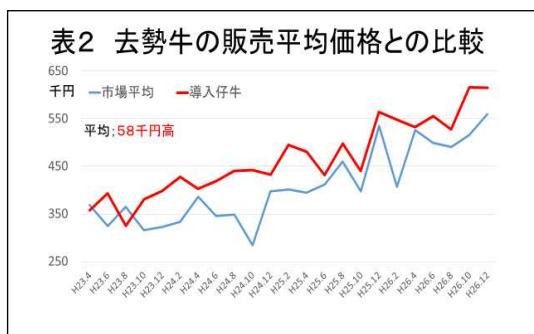
2か月に1回開催される和牛子牛の家畜市場の上場頭数と割合である。平成23年4月から上場されており、上場頭数における導入牛産子の割合は上がっており、最近では10%前後となっている。上場開始から平成26年12月までの延べ頭数2,325頭のうち、導入牛産子は200頭で8.6%となっている。(表1)



販売平均価格との比較について

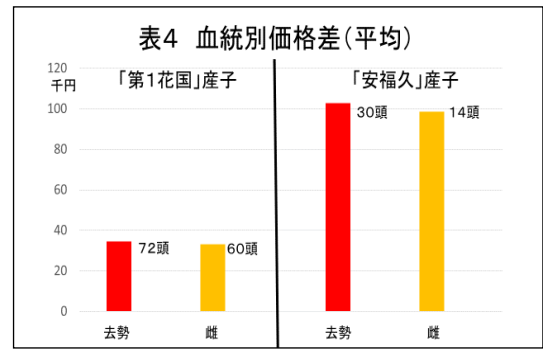
去勢牛の販売平均価格については、市場平均に比較して導入牛産子の平均は58千円、最大では238千円高くなった。(表2)

雌牛の販売平均価格については、市場平均に比較して導入牛産子の平均は45千円、最大では184千円高くなった。(表3)



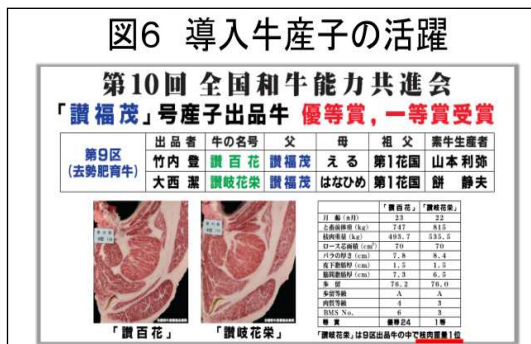
導入牛の血統・雌雄別価格差

2代祖第1花国の去勢72頭・雌60頭、2代祖安福久の去勢30頭・雌14頭について市場平均価格と比較をした。その結果、2代祖第1花国・去勢は35千円、雌は34千円、2代祖安福久・去勢は103千円、雌は99千円高値であった。



導入牛・産子の活躍

平成21年度導入牛産子から第10回全国和牛能力共進会第9区(去勢肥育牛)に2頭出品し、優等賞と1等賞を受賞した。1等賞を受賞した牛は第9区出品牛76頭のうち枝肉重量が1位だった。(図6) また、平成26年度香川県畜産共進会に2部4区2頭、2部5区3頭を出品し、優秀な成績を収めた。(図7)



まとめ

- 平成21～26年で68戸・201頭の優良繁殖雌牛が香川県に導入された。その導入牛は県内繁殖雌牛1,513頭の13%を占めた。また、導入牛とその雌産子を併せると246頭と16.4%が導入事業に関係する繁殖雌牛となった。
- 平成23年4月～平成26年12月の間に香川県家畜市場に上場された和牛子牛2,523頭のうち導入牛産子は200頭であり、それは家畜市場上場頭数の8.6%だった。
- 導入牛産子の販売価格は、家畜市場の平均価格と比べると、去勢で58千円、雌で45千円の高値取引だった。中でも、安福久を2代祖に持つ子牛は去勢で103千円、雌で99千円の高値取引だった。平均販売価格と導入牛産子との差額だけでみると855万円の増収であった。
- 導入子牛は第10回全国和牛能力共進会において、25年ぶりに優秀賞、1等賞を受賞した。導入牛は県共進会に出品し、優秀な成績を収めた。(図8)

図8 まとめ

- 平成21～26年 68戸201頭の優良繁殖雌牛を導入した。
導入牛は県内繁殖雌牛1,513頭の13%を占める。
導入牛及びその産子を併せると246頭と16.4%が導入事業に係る繁殖雌牛である。
- 平成23年4月～平成26年12月の間、市場に上場された2,523頭のうち導入牛産子200頭は市場上場数の8.6%に相当する。
- 上場子牛の販売価格は、平均販売価格と比べ、去勢58千円、雌45千円高値取引だった。中でも、安福久を2代祖に持つ子牛は去勢103千円、雌99千円高値取引だった。
- 導入牛子牛は第10回全国和牛能力共進会において、25年ぶりに優秀賞、1等賞を受賞し、県共進会においても優秀な成績をおさめた。

考察

①導入事業により、和牛生産の基盤が強化された。農家の意識が向上し和牛改良組合の設立が1組合、準備中が1組合となった。これにより、和牛子牛の生産意欲が上がったと思われる。

②導入牛選定等の農家への希望調査を家保がきめ細かく実施した。今後は肥育農家への意向調査も加味すべきと思われた。

③今回の調査では、「安福久」に代表される人気の種雄牛の子が高値だった。今後も市場で高値取引される子牛生産の継続のためには、ある程度の血統集約を行い、これらの血統の上場頭数を増やすべきである。そうすることで香川県家畜市場の活性化の維持が可能と思われた。

④枝肉価格への効果は、現在、2～3産目までしか見ていないのと、枝肉価格の効果を検証していないので、全体の効果はまだ分からない。しかしながら、今までの事業で市場の求める高品質な「オリーブ牛」の増産体制の構築ができつつあるので、今後数年間は導入事業を継続すべきと思われた。今回の調査で明らかになった子牛の高値であるが、飼料などのコスト高もあり利益は出にくく、規模拡大意欲にはなっていない上、高齢化による廃業も続いている。対策として今回の導入事業だけでなく、他の事業も併せて経営安定の支援拡充が必要であると思われる。

図9 考察

①:和牛生産の基盤が強化され、農家の意識が向上し、和牛改良組合の設立(1組合)、準備中(1組合)など。
→農家の和牛子牛の生産意欲が上がった。

②:導入牛選定等の農家の希望調査を家保が繁殖農家に対してきめ細かく実施したが、今後は肥育農家への意向調査も加味すべきと思われた。

③今回の調査では「安福久」に代表される人気の種雄牛の子が高値だった。→今後も市場で高値取引される子牛生産の継続のためには、ある程度の血統集約を行い、これら血統の上場頭数を増やすべき。
→香川県家畜市場の活性化につながる。

④:市場の求める高品質な「オリーブ牛」の増産体制構築ができつつあるので、今後数年間は導入事業を継続すべきである。